



東部教育事務所社教便り『社窓No.56』

令和5年度香美・香南地区小中学校 令和6年1月

PTA 連絡協議会研究大会

東部教育事務所（文責：井上）

安芸市矢ノ丸1-4-36

TEL：0887-34-3591・FAX：0887-34-3592

E-mail：310304@ken.pref.kochi.lg.jp



令和5年12月2日（土）に香南市立野市中学校にて標記の会が開催されました。公開授業の参観、表彰行事、講演という日程で行われ、今回は講演の内容を抜粋してお知らせします。

【講演】「ほんの少し変えるだけでうまくいく ～子育てあるあるヒント～」

高知大学教職大学院 教授 こねなが 是永 こ かな子 氏

様々な個性や発達障害といわれるような多様な特性のある子どもがいます。子どもたちが安心して成長していくことができるように関わっている周りの大人たちが理解していくことが大切です。そこで、大人の存在が子どもにとって安心できる環境になるために、特別支援教育の視点がポイントとなります。

例えば、大人が子どもに関わる時、「～しなさい」や「何で出来ないの?」と思わず言ってしまったこともあるかもしれません。しかし、指示を聞き取れなかったのは子どもが悪かったのでしょうか。指示の内容を順序立て、短文にするなどして、大人が伝え方を工夫することにより、子どもたちは指示が理解できることがあります。子どもたちは「注意」を受けたいのではなく、「注意喚起」を受けたいのです。

また、子どもたちは家族で話し合い決めたことは、家族みんなのルールとして守ることができるようになります。例えば、物をよく失くす子どもさんの場合です。家族でいつも目に留まる場所に失くしそうなものを置いておくなど、家族で一緒に確認し合えることが大切です。大人と一緒に取り組むことで、少しずつ自分からできる子どもに育っていきます。「大丈夫」「一緒に～しよう」と肯定的に声掛けをしていきましょう。

脳科学的に、子どもはまず行動し、そこからやる気が生まれるといわれています。大人が子どもに対して「とりあえずやってみよう」と促していくことが大切です。ときに、反抗が暴言や暴力へと移行し、対応にお困りの方もいるかもしれません。子どもと向き合う家族が心的不調を抱えてしまうこともあります。そのようなときは大人が一人で子どもに対応せず、その子どもに対して複数人で関わっていくことが大切です。学校の先生に困った具体的場面を伝え、対応方法を聞いてみたり、しっかり「だめ」を教えるためには警察等の協力を得たりすることも必要かもしれません。色々な立場の人がその専門的な視点に立って、「だめ」を伝えることです。そして「だめ」だけでなく、これから変えることのできるその子どもの「未来」について、大人がどうしたらいいのか、子どもと一緒に考えていくことが大切です。

無理に説得するのではなく、子どもが発した言い訳から本心に近づき、そこから得られるヒントに関わり方に生かせるといいですね。子どものタイプは様々です。まずは、子どもの気持ちを聞き、どこにこだわっているのか話し合い、子どもと大人が納得し合えるところを探っていけるといいですね。



参加者からのご質問についても具体的な対応方法を教えていただきました。子どもの個性や特性に応じた関わり方を知り、子どもの成長を促すための子育てのヒントを沢山いただくことができました。